

正月の靖国神社=平成29年元旦

謹賀新年

政府は二十二日、一般 過去最大更新し。高
会計総額を九十七兆四千 齢化の進展で、社会保障
五百四十七億円とする平 費が初めて三十兆円台
成二十九年度予算案を閣 突破した影響が大きい
議決定した。前年度当初 一方、新規国債の発
予算に比べ、七千三百二十 行を七年連続で減額し財
九億円増え、五年連続で 政健全化にも配慮するな

29年度 概算要求通りに計上 本会の要望が概ね達成される

平成二十九年度政府予算案は、十二月二十二日午前の閣議で決定した。本会関係では、戦没者遺族の処遇改善に関する要望事項は、公務扶助料、遺族年金等の据え置きをはじめ、遺骨収集事業関係費の拡充強化、戦没者遺児による慰霊友好親善事業の実施等その他の処遇改善項目に係る予算も、概算要求通りに計上された。



平成29年1月15日 第793号

一般財団法人日本遺族会
 東京都千代田区七
 丁目六番三階 5521
 電話 03-52389
 00160-6-6 時上
 郵便番号 115
 1部130円(税込)

日本遺族会は国の礎となられた英霊顕彰をはじめ、戦没者の遺族の福祉の増進、慰霊教育の進を開くと共に、道義の昂揚、品性の涵養に努め、世界の恒久平和の確立に寄与することを目的とする。

新年のごあいさつ



日本遺族会会長
 参議院議員
 水落敏栄

遺族の皆様にはお元 安倍総理の真珠湾訪問な
 気で新しい年をお迎えの ことと拝察いたします。
 昨年には熊本地震、鳥取 地震や、台風などの自然
 災害により多くの地域で 甚大な被害が発生しまし
 た。被災され、いまだ不 自由な暮らしを余儀なく
 されている皆様により、 自見舞を申し上げます。
 今後とも政府、与党一丸 となって、復旧復興に全
 力を挙げて参ります。
 昨年は天皇皇后両陛下 のフィリピンご訪問、オ
 バマ大統領の広島訪問、

い財政状況の中、本会は 十二月十五日、「第七十
 二回全国戦没者遺族大 会」を東京・千代田区の
 自由民主会館八階ホール で開催し、来賓の国会議
 員に本会の要望事項の実 現を訴えた。
 大会終了後、参集した 各都道府県遺族代表は、
 自民党本部、衆・参議員 会館、国会に赴き、地元
 選出の自民党所属国会議 員に戦没者遺族の処遇改
 とを、日本遺族会会長と して、いかに取り組んで
 いくか、重い課題を頂い たと受け止めています。
 日本遺族会は本年創立 七十周年を迎えます。本
 会の喫緊にして最大の課 題は後継者の育成であ
 り、その為、本会はもと より全国においても、後
 継者である青年部結成の 活動に力を注いでいます。
 戦争の風化を防ぎ、平 和を語り継ぐことは、私
 たち遺族会に課せられた 社会的責務であり、本会
 の創設理念であります。 平和で豊かな時代に生ま
 れた世代である「青年部」 の結成は容易ではありません。
 しかし両陛下が折 に触れお話し下さった
 「戦争の風化への危惧」 「恒久平和の尊さ」を私

善に関するお願いを書を手 交し、本会の要望事項実 現に対する理解と協力を 求めた。そして、全国の 遺族代表が一丸となって 陳情運動を実施した結 果、本会の要望事項は概 ね実現した。

平成二十九年度政府予 算における戦没者の処遇 は、公務扶助料、遺族年 金等の据え置きをはじめ、遺骨収集事業関係費 では、本年度予算に比べ、一億八千三百円増の二 十三億二千六百万円が計 上され、未送遺骨の情 報収集事業等が拡充強化 された。戦没者遺児によ る慰霊友好親善事業は、 本会と同様に十七地域、 九百人を確保した。さら

には、昭和館事業では、 新規に、昭和館の防災機 能強化に係る経費として 二億八千九百万円が計上 された。(詳細は二面に 掲載)

御社奉斎
 靖国神社の奉仕で 十二月十六日、本会 事務所の御社奉斎が執 行された。
 御社奉斎は午前十一 時、靖国神社の奉仕で執 行われ、祝詞奉読に続 き玉串が奉奠された。
 御社奉斎には昨上事務 理事他事務局職員が参列 し、本会事業の達成と戦 没者遺族の方々等の健安 を祈願した。

最後には昨夏の参議院選 挙において、三期目の当 選を果たすことが出来ま した。加えて安倍改進黨 閣において、文部科学副 大臣・内閣府副大臣を拝 命いたしました。改めて 皆様へお言葉を述べられ たい。▼安倍首相とオバマ 大統領が真珠湾を訪れ機 性者を慰霊、黙花し黙と うの後、安倍首相は先の大 戦の犠牲者に対し永劫の 哀悼の誠をささげると述 べ戦争の惨禍は二度と繰 り返してはならないと不 戦の誓いを述べた。また、 この地が和解の象徴とし て世界中の人々に記憶し 続けられる事を願うとも 語った。歴史から教訓を 得、未来へははたたく新 たな一歩を期待したい。

会はこのからもあらゆる 協力を重ねて参ります。
 参りました。
 また、「遺骨の収集を 「国の責務」と明記した 遺骨収集を推進する法律 が、昨年三月成立しまし た。戦後七十一年余りが 経過してもなお、未だ一 一三万人の遺骨が海外 においてそのままになっ ている現状を、この法律 の報道で知られた方もお られるでしょう。
 私は、こうした現実を 報道機関や学校教育を通 じて伝えることこそが、 戦争の悲惨さ、平和の尊 さを伝えるきっかけにな ると考えており、この法 律にはそうした意義も含 まれると思っております。 そして「遺骨の収集が推 進されるよう、日本遺族

かでは穏や かに清々しい新 年を迎えた。平 成29年と新年、 佐渡では国の特 別天然記念物で大空 を舞う。自然界で生まれ 育ったベアから40年ぶり にヒナが誕生し、生息数 は御羽を越えた。朱鷺色 の一団には早く全国の空 にはばたいて欲しいと願 うものである。宮内庁は 天皇陛下の負担軽減の一 環として元日報道の「新 年にあたっての感想」を とりやめた。一年の回顧 や新年への願いに触れ、 一般参賀でもそれぞれ述 べられており、皇室行事 が続く中、お言葉をいく つも作成するのは大きな 負担となるため、陛下の 了解をいただいたうえで 見直しを実施した。昨年 の誕生日の会費では、月の フリピン訪問を挙げて、 今度の友好関係は先の 大戦で命を落とした両国 の多くの犠牲の上に長い 年月を経て築かれたもの であり、今後は更に深ま る事を祈りますと未来に 向けにお言葉を述べられ た。▼安倍首相とオバマ 大統領が真珠湾を訪れ機 性者を慰霊、黙花し黙と うの後、安倍首相は先の大 戦の犠牲者に対し永劫の 哀悼の誠をささげると述 べ戦争の惨禍は二度と繰 り返してはならないと不 戦の誓いを述べた。また、 この地が和解の象徴とし て世界中の人々に記憶し 続けられる事を願うとも 語った。歴史から教訓を 得、未来へははたたく新 たな一歩を期待したい。

洗心懇談会 (順不同)

東郷郷会
 大東亜戦争全戦没者
 慰霊団体協議会
 特攻隊戦没者慰霊顕彰会
 三笠保存会
 中央乃木会
 千鳥ヶ淵戦没者墓苑奉仕会
 隊友連盟
 日本郷友連
 水交社
 借交社
 靖国神社
 英霊にこたえる会
 日本遺族会

謹賀新年

一般財団法人
 日本遺族会

会 長 水落敏栄
 副 会 長 宇田川 劔雄
 同 市 來 健之助
 専務理事 畔上 和男
 他役職員一同

要望事項実現に向け 全国遺族代表が集結 第72回遺族大会

十二月十五日、東京千代田区の自由民主党会館八階ホールに全国の戦没者遺族代表約四百二十人が参集して、第七十二回全国戦没者遺族大会を開催。大会には来賓として高市早苗総務大臣、塩崎恭久厚生労働大臣、自民党から細田博之総務会長、古屋圭司選挙対策委員長をはじめ、自民党所属衆参国会议員等が多数出席した。



全国戦没者遺族大会で挨拶に立つ水落敏栄本会会長
=12月15日、自由民主党会館ホールで

大会は午前十時、畔上 長が開会を宣し、国歌斉唱と参集の司会を始唱に続いて二百四十六万六千六百七十九人の戦没者遺族の代表が参集した。宇田川勲雄副会長が挨拶を述べた。

はじめに水落敏栄本会会長が「天皇皇后両陛下が本年一月にフィリピンを訪問され、政府建立の慰霊碑に供花された。その後お出迎えに参列していた遺族に歩み寄られ、一人一人にお言葉をおかけになられた。戦没者とその遺族に対し、常に陛下をお祈りくださる、常に陛下のお姿に触れ、私は涙をこらえることができなかった」と両陛下に対して感謝を述べ、「先の戦争の記憶が風化されつ



塩崎厚生労働大臣へ陳情する本会役員
=12月15日、厚生労働省で

つある現在、日本遺族会こそが、戦争の悲惨さ、平和の尊さを後世に伝え、続けていく役割を担った唯一の組織である」と挨拶した。

「遺族の方々の生活をしっかりと支える」と、塩崎恭久厚生労働大臣は「戦没者遺族の援護は、国が果たすべき責務である」との認識を持って対応すること、古屋圭司選挙対策委員長は、「宣言決議にもあるように、要請については関係議員としっかりと連携して、その実現を果たしていくこと約束する」とそれぞれ挨拶した。また、新たに遺族協議員協議会会長に就任した尾辻秀久会長も挨拶した。尾辻先生といふ仕事をしたいことを誓い、と挨拶した。

支那の中心役割を担っている各部遺族協議会役員等の日頃の労苦に対し感謝し、遺族会の結束をより強固にするため「本部」支部役員等との懇談会を十二月十四日、東京千代田区のホテルグランドパレスで開催した。懇談会は午後六時から各支部代表百四十五人が出席し始まった。水落敏栄会長(参議院議員)は「日頃から遺族会活動への支援、ご協力に感謝するとともに、遺族会が抱える諸問題を解決のため更なる遺族会の結束をお

支那の中心役割を担っている各部遺族協議会役員等の日頃の労苦に対し感謝し、遺族会の結束をより強固にするため「本部」支部役員等との懇談会を十二月十四日、東京千代田区のホテルグランドパレスで開催した。懇談会は午後六時から各支部代表百四十五人が出席し始まった。水落敏栄会長(参議院議員)は「日頃から遺族会活動への支援、ご協力に感謝するとともに、遺族会が抱える諸問題を解決のため更なる遺族会の結束をお

護衛艦「たかなみ」
ノロモン諸島より遺骨送還
十二月十五日、横須賀港に寄港し、水落敏栄日本遺族会会長(参議院議員)をはじめ国会議員、関係遺族や厚生労働省、防衛省の関係者が多数が出席し、海上自衛隊員から遺骨が引き渡される=12月15日、横須賀で

29年度政府予算における 戦没者遺族処遇改善項目

一 遺族年金等(別表)
二 遺骨収集事業の強化
23億1千600万円
(1)硫黄島遺骨収集事業
13億9千600万円
(2)南方・旧ソ連地域遺骨収集事業
9億2千700万円(情報収集費を含む)
三 遺骨収集実施地域・19地域(フィリピン、東部ニューギニア、ピスマー

一 遺族年金等(別表)
二 遺骨収集事業の強化
23億1千600万円
(1)硫黄島遺骨収集事業
13億9千600万円
(2)南方・旧ソ連地域遺骨収集事業
9億2千700万円(情報収集費を含む)
三 遺骨収集実施地域・19地域(フィリピン、東部ニューギニア、ピスマー

一 遺族年金等(別表)
二 遺骨収集事業の強化
23億1千600万円
(1)硫黄島遺骨収集事業
13億9千600万円
(2)南方・旧ソ連地域遺骨収集事業
9億2千700万円(情報収集費を含む)
三 遺骨収集実施地域・19地域(フィリピン、東部ニューギニア、ピスマー

一 遺族年金等(別表)
二 遺骨収集事業の強化
23億1千600万円
(1)硫黄島遺骨収集事業
13億9千600万円
(2)南方・旧ソ連地域遺骨収集事業
9億2千700万円(情報収集費を含む)
三 遺骨収集実施地域・19地域(フィリピン、東部ニューギニア、ピスマー

公務扶助料等年額一覧表

種類	平成29年4月1日(月額)	対象遺族
公務扶助料	1,966,800(163,900)	軍人(少佐まで同額)
特別扶助料	1,573,500(131,125)	軍人(少尉まで同額)
扶養加給	72,000	軍人
先順位遺族年金	1,966,800(163,900)	軍属、一部軍人
同 遺族給与金	1,966,800(163,900)	準軍属
同 特別遺族年金	1,573,500(131,120)	軍属、一部軍人
同 特別遺族給与金	1,573,500(131,120)	準軍属
後順位遺族年金	72,000	軍属、一部軍人
同 遺族給与金	72,000	準軍属
同 特別遺族年金	56,400	軍属、一部軍人
同 特別遺族給与金	56,400	準軍属
給付受給資格者の年金	193,200	軍人
特設年金	456,400	軍人、軍属、準軍属
特別特設年金	335,000	同上
対馬丸特別支出金	1件・年額 1,376,760	遺族学童

(注) 上記の年額表は、日本遺族会事務局による試算で、多少異動することもあるため、ご了承ください。



海上自衛隊員から厚生労働省職員へ遺骨が引き渡される=12月15日、横須賀で

遺骨が引き渡される=12月15日、横須賀で

遺骨が引き渡される=12月15日、横須賀で

一般財団法人 日本遺族会への賛助金のお願い

日本遺族会では、英霊顕彰や遺族支援など様々な活動のために賛助金を募っております。本会は、これまで英霊の顕彰並びに戦没者遺族の福祉増進をはかるため、日々活動を行ってきたところでございますが、東日本大震災により収益部門であった九段会館が閉鎖したことに伴い、現在、慰霊友好親善事業をはじめ、遺骨収集滞滞等各種事業の継続が大変厳しい状況にあります。本会といたしましては、各種事業を行うにあたり、今後とも努力していくことは勿論のことですが、戦没者の遺族並びに本紙ご購読者、本会の諸事業にご賛同される皆様方より一層のご支援、ご協力を仰がなければなりません。本会の活動の趣旨にご理解を賜り、何卒ご賛同いただきますようお願い申し上げます。大変恐縮ですが、ご賛同いただいた方の氏名を本紙に掲載し、お礼に代えさせていただきます。

賛助金のお振込みは
 ●郵便振替 00130-2-694929
 ●みずほ銀行 九段支店 普通預金: 0980930
 ●口座名は「一般財団法人日本遺族会(ザイ)ニホンイソクカイ」
 ※ご不明な点は本会事務局(電話03-3261-6521)までお問い合わせ願います

好業 友事 霊善 慰親

亡き父の眠るミャンマーへ

積年の想いを語りかける

伊藤早苗本会常務理事(三重県遺族会副会長)を総括団長とする戦没者遺児によるミャンマー慰霊友好親善訪問団一行二十五人は、十一月二十九日から十二月七日までの九日間、永年の念願であったミャンマーの各地を訪れ、亡き父の眠る地において七十余年に及ぶ思いを父と語り、慰霊の誠を尽くすとともに積年の想いを果たした。

道沿いやヤンゴンで、B班はミートキーナ、モガウン北方サガインヒル、メイミョ、メイクテーラ、セイクピユで、C班はプロム、カレワで、それぞれ慰霊祭を行い、ミャンマーの大地に眠る亡き父へ積年の想いを涙ながらに語りかけた。また、A班はベグーの小学校、B班はヤンゴンのミンガラドン地区の小学校、C班はヤンゴン郊外の北オカラッパの小学校を訪問し、団員が持ち寄った学用品や衣類、スポーツ用品等を寄贈し、子供たちと大縄跳び、折り紙をするなど日本の遊びで交流を図った。その後、学校の校庭に友好の記念



神山海岸付近での遺骨収容作業=11月29日、硫黄島で

相次いで遺骨収集を実施

硫黄島・ソロモン諸島・パラオ諸島で

日本戦没者遺骨収集推進協会は、硫黄島、ソロモン諸島、パラオ諸島へ相次いで遺骨収集派遣を実施した。

硫黄島
 硫黄島遺骨収集第三回収集派遣は、十一月二日から十二月七日まで実施され、本会からは七人を派遣した。当初、派遣団は滑走路下の未探索帯での収容作業を予定していたが、地熱による案内の温度が上昇しているため危険であると判断し、硫黄島東海岸部の塚を中心に作業を実施した結果、北側近隣の海岸部で一柱、神山海岸付近で二柱を収容した。今回収容した遺骨は、二月に予定している第四回収集派遣によって奉還される。

ソロモン諸島
 ソロモン諸島戦没者遺骨収集派遣は、十一月二十七日から十二月五日の期間で実施され、本会から二人を派遣した。派遣団はガダルカナル島の丸山道等で遺骨を捜索し、現地協力者がすでに発見していた遺骨を含めて、二上柱を収容した。その後、団員の手で丁寧に洗骨された遺骨は、十一月一日に焼骨され、



カドウィンチヤン小学校を訪問し児童らと遊戯をする団員=12月4日、ベグーで

に植樹を行い、子供たちの健やかなる成長と平和を祈念した。

さらに、A班はナツタシグ村のステーション病院、B班はマンダラレの整形外科病院、C班はプロム(ピイ)の国民病院へ車椅子等を寄贈し、現地の方々の親善を胸に真摯な態度で、

関係を深めた。

十一月五日、ヤンゴン市郊外にある北オカラッパ日本人墓地「ビルマ平和記念碑」前にて、金戦没者追悼式を厳粛に挙行し、追悼の誠を捧げた。

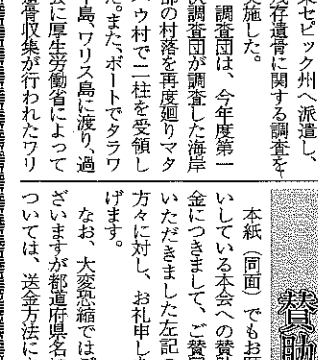
七日、所期の目的を果した一行は、各々の思いを胸に真摯な態度で、

東セビック州を調査

未送還遺骨情報収集事業

日本遺族会は、厚生労働省の委託事業である海外未送還遺骨情報収集事業の東セビック州へ派遣した。平成十八年度第四次調査団八人を十一月十日から二十四日の期間、バプアニューギニア東セビック州へ派遣し、残存遺骨に関する調査を実施した。

調査団は、今年度第一次調査団が調査した海岸部の村落を再度回りマタバウ村で二柱を受領した。また、ボートでタラワイ島ワリス島に渡り、過去に厚生労働省によって遺骨収集が行われたワリ



収容した遺骨を茶屋に付す派遣団=12月1日、ガダルカナル島で

同日、在ソロモン日本国大使参列の下、追悼式が行われた。

十二月三日には、派遣団からホニアラ港に寄港した海上自衛隊護衛艦「たかなみ」隊員へ、九月に厚生労働省による遺骨収集団が焼骨し仮安置



収容した遺骨を茶屋に付す派遣団=12月1日、ガダルカナル島で

間て実施され、本会から一人を派遣した。

派遣団は、海外未送還遺骨情報収集事業の調査によって、これまでに判明している遺骨発見箇所、リユー島で十四柱、アングアル島で一柱の遺骨を収容した。

収容した遺骨は、日本から同行した慰霊事業人類学専門官の鑑定により日本兵と判定され、ベリリユー島「みたまの塔」で焼骨式、追悼式が執り行われた。

十二月九日、派遣団により奉持され帰還した遺骨は、千鳥ヶ淵戦没者墓苑での遺骨引渡式で、遺族らが見守る中、厚生労働省へと引き渡された。

パラオ諸島
 パラオ諸島戦没者遺骨収集派遣は、十一月二十八日から十二月九日の期

ブリック方面の山南地区を調査した。今回は、集中豪雨の影響で橋が流されるなど、道路状況の悪化により目的の村に到達できないこともあったが、タンゴリ村、ヌンゴリ村、ウルブ村、ハナゴ村で現地住民から寄せられた情報に基づき遺骨を発見、収容した。

今回受領した遺骨の総数は八柱で、ウエワクのニユーウエワホテルの一時保管場所に安置し、今後月に予定されている遺骨収集派遣団により日本へ帰還する。

本会への賛助金のお礼

本紙(同回)でもお願している本会への賛助金につきまして、ご賛同いただきました左記の方々に、お礼申し上げます。

大塚憲祐様は、ご自身が都道府県名に遺骨収集が行われたワリ

石井順二郎、岸本和博、堀文一、小坂俊雄、濱川八敏、近藤善光、藤田智、大西勲、清水香子、池田保之、長門和雄、大林義功、東智恵、弘田智、田澤代、森忠利(以上、十一月一日から十二月末日まで)

皆様からいただきました賛助金は、本会が実施する各種慰霊事業などの活動費用に利用させていただきます。誠にありがとうございます。

本会事業参加者の皆様へ
 本会の事業に参加するに当たり、得た個人情報(個人情報)の保護は「個人情報保護法」の定めにより、厳重に扱います。日本遺族会の個人情報保護方針につきましてはホームページを参照されるか、本会にお問い合わせください。

